

カーボン・オフセットの取組み

リゾートエリアの森林保護とCO2削減の取組MODEL ～グリーン&クリーン・リゾートの展開～

「EVI環境マッチングイベント2014」

一般社団法人蓼科白樺高原観光協会理事 榎本 真弓氏



蓼科白樺高原観光協会理事 榎本 真弓氏

立科町は人口7617人、長野県のほぼ中央に位置しており、日本百名山の一つであり八ヶ岳連峰最北の蓼科山をシンボルとしています。蓼科山の湧水を蓄えた女神湖と白樺湖があり、女神湖は周囲1.5キロと小さいですが水も清く大変美しい湖です。地域全体の晴天率は80%で日本一です。年間平均気温は8.2度夏の涼しさ、秋の紅葉、冬のパウダースノウなど四季の移り変わりがハッキリしており、自然豊かな環境です。また豊富な湧水のおかげで立科町の水道水は、100%湧水で賄っている恵まれた環境にあります。

「白樺高原国際スキー場」「しらかば2in1スキー場」の2箇所のゲレンデを有しており、観光地全体が八ヶ岳中信高原国立公園のエリア内となっております。

EVIの取組み

グリーン&クリーン・リゾート事業をリゾートエリアで行うのは国内初と聞きました。観光協会としてどのように取り組むのか、訪れるお客様への発信をどうするか、この事業は一度で終わるのか、継続するのか、観光協会として今後どのように取り組むかなど検討しましたが、まずは協会員の中で関心のある施設から進めることに決まりました。

カルネコ事業部の協力で、短期間で素敵なグッズを用意して頂き、2014年8月1日からスタートしました。

スターターキットは間伐材を活用したG&Cのプレート、説明ポップ、EVIシール10円と1円のシート、シール貼付カードです。

宿泊施設は、G&Cプレートを設置、各ルームには説明ポップを掲示、チェックアウト時にG&Cの説明をし、一泊一名、EVIシール10円を



スターターキット



スターターキット



女神湖

貼付して宿泊者に渡します。名刺サイズのカードにシール5枚が貼付可能となっております、リピーターに繋がるようにおすすめします。
物品販売施設は、間伐材活用G&CのプレートとEVIシール1円を商品に貼付し、カーボン・オフセ

取組みがスタートして

今回この取組がスタートしたのが

8月のトップシーズンでしたので、施設側から「シーズン中のチェックアウトの忙しい時に説明するのは時間がなく難しい」とクレームが出ました。

自営のペンション「すもくちーふ」で私も試行錯誤し、夕食後や朝食が終わった頃にゆっくりと話しをするのがベストだと感じました。カーボン・オフセットとは、グリーン&クリーン事業とは、環境の大切さを交えながら説明

し、お客様の考えも聞くことができてました。

お客様は、異常気象や地球温暖化について非常に関心が高く「身近にできることは協力したい、それが簡単な事なら嬉しいし、さらに良い」との反応がありました。また「観光地全体で展開しているということは大変イメージが良い」「自然という無形から価値を表すものになる」と話は広がりました。リピーターの方々はこの地が好きだから何回も訪れる。その地域が良いことを始めたから「一緒に頑張って応援したいしサポーターにもなる」とありがたい言葉もいただきました。

観光協会として今後の課題

観光協会全施設が、グリーン&クリーン事業を十分理解するには少し時間がかかりそうです。今後も協会員に、丁寧な説明を重ねながら取り組んでいかなければならないと思っています。2014年の結果は、施設側がお客様にどのように発信するか、環境の話をどう話すかが重要と分かりました。

お客様からは「丁寧に話せばその会話はまた次の会話に繋がっていき



宿泊者に説明



EVIシールを貼付した「ミルクラスク」



女神湖

別の課題があります。国有林、県有林という行政区の森林は、国や県が保護しますが、個人の山林が悲鳴を上げています。個人の山林は個人の責任ですが、費用や人出の問題が今後の課題です。また、立科町のシンボルフラワーである自生するスズランが、鹿の食害によって観光地内で確認できる場所がなくなっています。今後スズランの保護と鹿の増殖に対する取

ます。長野県の森林保護に協力することは大変良いことなので、積極的に進めて下さい」というご意見でした。オーナーの一步進んだ話かけ、丁寧な説明が不可欠である。またオーナーの協力がなければ広がらないと実感しています。

本事業の取り組みやイメージの拡大は、継続が最重要です。人が人へ伝える。人と人との繋がりが事業を

深める。観光協会としても何かをしなければいけないと感じていました。その中でも価値を持っていても見せることのできないものが今回の森林保護、カーボン・オフセット事業ではないかと思えます。カーボン・オフセット事業がオフシーズンの新たな事業に拡大するよう取り組んでいきたいと思えます。

り組みも進めていかなければなりません。

最後に

蓼科白樺高原観光協会は「グリーン&クリンリゾート子供たちの未来に繋ぐ女神湖の森と水と空気を守ります」をスローガンに、リゾートエリアの森林保護とCO2削減の取り組みをスタートすることができました。

私達は素晴らしい自然の環境下にながら、それをどのように見せるのか、その見せ方を知らずにいました。今後、立科町に訪れる観光客と



宿泊者に説明

環境について語り合うファンをヘビークリーナーに繋げていく。グリーン&クリン事業はそのきっかけになる事業だと思います。「水や空気が美味しい」は長野県内、また国内のどこにでもあります。無形から有形、また付加価値をつけて観光ビジネスにも発展させることができる事業と感じました。

今回の取り組みがリゾートエリアでは日本初ということ深く受け止め、ともに一歩前へと進む。地域活性のために更に積極的に取り組んでいきたいと思えます。



蓼科山